

地元を愛する、地元の銀行。

More For You
もっと、街・暮らし・笑顔のために

武蔵野銀行

2016年(平成28年)

11月28日

月曜日

日刊工業新聞

本社(TEL)03-5644-7000東京都中央区日本橋小網町14-1/大塚支社(TEL)06-6946-3321大阪市中央区北浜東2-16/名古屋支社(TEL)052-931-6151名古屋市東区泉2-21-26/西部支社(TEL)092-271-5711福岡市博多区古門戸町1-1

購読お申し込みはフリーダイヤル
東京:0120-412346
大阪:0120-597117
名古屋:0120-462346
福岡:0120-817120



monoasu.jp

www.cho-monodzukuri.jp/



モノづくり
日本会議

モノづくりへの挑戦

埼玉産業界を担う経営者、技術者、研究者に聞く

industria

高橋 一彰社長



industria (埼玉県入間市、高橋一彰社長、04・2934・8500)は、エレメント交換が不要な遠心分離式フィルター「フィルスター」が主力製品。発売から10年弱で、国内外において約5万台を出荷した。9月に米国で行われたシカゴの工作機械見本市では、国内7社の工作機械メーカーが、フィルスターをクレーン・液循環機構に採用した機種を展示。「全ての機種に、組み込み用として採用して頂いたメーカーもある。来年には国内工作機械9社まで採用が拡大

の見込み」と高橋社長は明かす。フィルスターを組み込んだ切粉自動回収装置「is BOX」も発売数年で累計3000台超を出荷。「業種ごとに合った設定が必要だが、金属切粉を脱水・乾燥したフレット状に自動排出する機能が受けた」と手応え。こうした背景から現場は大忙し。だが規模の拡大は追わない。「こなせない分は地元で他社に依頼。当社は研究開発強化に専念」の方針。17年には計測分野にも進出する予定だ。

日本シーム 設計技術部

本田 高規氏



日本シーム(埼玉県川口市、木口達也社長、048・298・7700)はリサイクルに関連した粉砕機や脱水機、混合機などの開発・製造を手がける。環境に配慮した取り組みをテーマに今回開発した「真空乾燥機」は内部の空気を抜いて減圧し、ボイラーの蒸気で内部を温めて処理物を乾燥する。設計技術部の本田高規氏は「食品生ごみや工場排水処理汚泥などの重量を約60%以上減、容積も約70%以上縮小できる」と話し、焼却や理め立ての負担軽減に加えて飼料や肥料の再利用も可能となる。中途入社から1年半が経過し、「社長がスピード感をもって常に複数のテーマを掲げて新技術の開発に取り組んでいる」と社風の魅力を実感。真空乾燥機の今後の改良課題として「さらに低温で蒸発できる構造やタンク内の伝熱面積を拡大するなどして真空度を突き詰めていきたい」と設計者の思いを語る。同社はプラスチック機械の専門メーカーとしてさまざまな製品の再利用・処理を有効化する手段を追求し続ける。